

# 教 育 研 究 業 績

2022年5月1日

氏名 大澤 明洋

学位：教育学修士

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
国語科指導法(小学校分野) 編集的な思考と国語科指導法 ページ(レイアウト重視の文章産出)作成と発信の技法 パラダイグマティックな技法の編集 「書く」こと(デジタルとアナログ)と「読む」こと	編集的な思考(エディタースhip) 小学校国語科指導法 往還する「読む」と「書く」 「書く」:デジタル的有り様とアナログ的有り様の融合 「読む」への脚注的発信としての text 自己内対話 パラダイグマティック 「メモ」を書く行為という出発点 NIE	
主要担当授業科目	国語科指導法 国語 子どもと言語 子ども学基礎演習 教育実習	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 日本国語教育学会 国語教育全国大会 81回 同上 74回、75回 毎日新聞社 新聞活用教室 学習新聞について	平成30年8月 平成23,24年 8月 平成17年6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」と「書くこと」の往還について ワークショップ講師</li> <li>・国語科としての新聞づくり(レイアウトすることと思考)、編集的思考についてのワークショップ講師</li> <li>・「スクラップ新聞」「メモを重層化する新聞」などの学習新聞づくりについての提案と議論</li> </ul>
2 作成した教科書, 教材 『マップ作文「授業書」…その始まりと展開』 『国語教育総合辞典』(朝倉書店)「編集」の項 『こうしてできたNIE』(白順社)(鈴木伸男 編著) 『みんな新聞記者・学校新聞入門』(ポプラ社)	平成15年6月 平成23年12月 平成18年6月 平成5年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉大学大学院教育学研究科修士課程在籍研究時、作成実践</li> <li>・「編集」の項、「学習新聞」について執筆</li> <li>・言葉を配置しながら考えることを進める授業の実践の有り様を執筆</li> <li>・共同監修</li> </ul>
3 教育上の能力に関する大学等の評価 千葉大学教育学部国語科教育の会『30年記念誌』執筆者に選出される。	平成19年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『「配置していく作業」が言葉を生む-読むこと・メモを書き始めること・編集的な思考 その重なりと意味-』を執筆、記念誌に掲載される</li> </ul>
4 実務の経験を有する者についての特記事項 市川市教育委員会教育センター指導主事	平成9年度から 12年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内教員対象の研修企画のチーフを2年間担当。勤務最終年には「連続講座」(近藤邦夫先生、佐藤学先生、小浜逸郎先生、諸富祥彦先生、西岡文彦先生、市川伸一先生;講師を招聘し、連続する講座の中からテーマ性を浮かび上がらせる企画)を同僚とともに担当企画</li> </ul>
5 その他 千葉大教育学部教育実習生(4年次学生)をクラスに受け入れての指導 千葉大学教育学部「小学校国語科教育演習」講師	昭和62年から 平成4年度 平成2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉大学教育学部附属小学校勤務時計62名</li> <li>・5回分を担当</li> </ul>
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格, 免許 小学校教諭1級免許状 中学校教諭1級免許状(社会) 高校教諭2級免許状(社会) 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状(社会) 高校教諭専修免許状(地歴)(公民)	昭和59年3月 平成16年3月	
2 特許等		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
市川市教育委員会教育センター指導主事	平成9年度から12年度	・市教育委員会広報紙「教育いちかわ」の主筆兼 DTP オペレーター。年4から5回企画編集作成・発行:紙面全体をレイアウトしつつコントロールすることにより、主張を統一的なデザインのもと発出することが可能となった。
公立幼稚園長・校長職	平成28年度から令和元年度	・市川市立信篤幼稚園園長、北方小学校校長:学校(園)経営と連動する「学校(園)だより」を編集発行、及び「学校HP」の随時更新。地域の学校園としての広報に努め、地域に開かれた学校園経営にあたる。制作内容を吟味し、発出者自らが入念に編集していく思考作成作業。熱心な「読者」を増やしていくことは、学級・学校(園)経営、さらには、指導の深化と深く関連していく。
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 「段落」	単	平成25年2月	『教育科学 国語教育』2月号(明治図書)	特集「作文指導」。「段落」の項を執筆。「段落」を「編集物」と考える、との考えを問う。英語圏での作文執筆作法「ロジカルな表現」に着目しつつ、「段落」は階層構造を持つメモを束ねたものと捉え、文頭の部分に重きを置く方法をアウトラインプロセッサの構造と重ねて紹介。「組み合わせ考えること」は、国語科指導でこそ育てていくべき力と提案。
2 「説明文」指導における「発問」	単	平成25年6月	『教育科学 国語教育』6月号(明治図書)	特集「発問」。説明文の指導場面において、「筆者」に注目し、文中での「問う」行為に着目。自問自答する読み手を育てることが「文章を読む」に繋がることについての考えを提案。児童に「問い」を産出させるためにこそ、教師自身が「問い」を生む苦しさを味わい試行してみるべきである、と提案。
3 『国語教育総合辞典』; 「学習新聞」の項	単	平成23年12月	『国語教育総合辞典』	「編集(エディターシップ)」に関わる作成物である「学習新聞」の項を担当執筆。その作成にまつわる意義と意味とを実践の場で得た知見を基に執筆。
:				
(学術論文)				
1 『月刊国語教育』; 「編集的な思考はパラダイグマティックな方法を求めている」	単	平成23年12月	『月刊 国語教育研究』東洋館出版	「検証 『編集』」として組まれた8ページ中の4ページを担当執筆。国語科単元開発の軸に、「編集的な思考」と「パラダイグマティック」の軸とを取り入れる可能性を論じた。子どもが言葉を獲得し自前の言葉として運用していく段階を考えていくとき、現行の「シンタグマティック」の軸優先、とは別の軸を考えることの可能性を問うてみた。併せ、「単元」は授業者が目の前の子どもの有り様と、教師が育てたい力を交差させて作り出す故、その技法を広げていく必要がある、との提案も試みる。
2				
3				
:				
(その他)				
1 「記事を読む、メモをとる」	単	平成18年6月	『こうしてできたNIE』(白順社)(鈴木伸男 編著)	「(マインド)マップ」を記述していく(=メモすること)を、紙面という「空間」に配置するアウトラインプロセッシングの一形態として捉え、「読む」学習に取り入れ、定着を試みる。そのことにより、「読む」と「書く」との往還を、視覚的、可視化(「見える」化)の分野からも捉えていくことができる、と提案。(「配

<p>2 東京成徳大学「国語科指導法」 「国語」「子どもと言葉」の授業 における授業資料の作成</p> <p>3 :</p>	<p>単</p>	<p>令和 2,3 年 度</p>	<p>東京成徳大学 担当授業</p>	<p>置していく作業』が言葉を生む（読むこと・メモを書き始めること・編集的な思考 その重なりと意味-」（『千葉大学国語科教育の会30年記念誌』）での執筆内容と重なりつつ可変させ、言葉を配置定着させつつ「考える」を進めていく「対話的」技法についての試論として執筆した。）</p> <p>2年間、小学校教諭、幼稚園教諭を目指す学生への「国語科」に関連する授業を担当。コロナ禍による遠隔授業の時期と重なったこともあり、各回の授業資料は全て編集自作し学内インターネット空間に発出。自分自身が資料を編集すること（「書く」こと）を重ねる当事者となる中、「書く」に影響を与えるデジタル文具、アナログ文具、それらの混合の在り方を、「国語科指導法」の研究対象(或いは「視点」)として見出した。小学校の現場で、急速に「一人一台体制」が進行する中、「書く」という学習の在り方が揺らいでいる、と私自身は捉えている。デジ・アナの融合という方向性を、「現在」の学徒である学生諸君とともに考えていくことが発端となった、「指導法」に関する研究である。</p>
--	----------	-----------------------	------------------------	---

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。